

## セッション5 その他

### 26. 日本アフェレシス学会による日本アフェレシスレジストリの開始にあたって

○石森 勇 (イソリイム)<sup>1)</sup>、花房 規男<sup>2)</sup>、平川 晋也<sup>1)</sup>、和田 篤志<sup>3)</sup>、大久保 淳<sup>4)</sup>、岩本ひとみ<sup>5)</sup>、伊藤 孝史<sup>6)</sup>、太田 秀一<sup>7)</sup>、草生真規雄<sup>8)</sup>、佐藤 元美<sup>9)</sup>、清島真理子<sup>10)</sup>、中永士師明<sup>11)</sup>、村上 淳<sup>1)</sup>、峰島三千男<sup>12)</sup>、土谷 健<sup>2)</sup>、新田 孝作<sup>13)</sup>、山路 健<sup>8)</sup>、松尾 秀徳<sup>14)</sup>

東京女子医科大学 臨床工学部<sup>1)</sup>、東京女子医科大学 血液浄化療法科<sup>2)</sup>、北彩都病院 内科<sup>3)</sup>、東京医科歯科大学医学部附属病院 ME センター<sup>4)</sup>、社会医療法人天神会 法人本部<sup>5)</sup>、島根大学医学部附属病院 腎臓内科<sup>6)</sup>、札幌北楡病院 血液内科<sup>7)</sup>、順天堂大学医学部 膠原病内科<sup>8)</sup>、新城市民病院 腎臓内科<sup>9)</sup>、岐阜大学 皮膚科<sup>10)</sup>、秋田大学大学院 医学系研究科 救急・集中治療医学講座<sup>11)</sup>、東京女子医科大学 臨床工学科<sup>12)</sup>、東京女子医科大学 第4内科<sup>13)</sup>、独立行政法人国立病院機構 長崎病院<sup>14)</sup>

日本アフェレシス学会は2020年4月より本邦初のアフェレシス治療のレジストリである「日本アフェレシスレジストリ」を開始する予定である。

この日本アフェレシスレジストリの目的は、わが国のアフェレシス治療の現状を継続的に調査・収集することを目的としている。収集する具体的な項目として治療内容、対象疾患、治療条件、合併症・安全性情報、治療に関連する合併症の状況がある。

データの収集には大阪市立大学 REDCap システム 学外提供を利用することとした。これは、Vanderbilt 大学が開発した REDCap を大阪市立大学が SaaS (Software as a Service) の形で提供する EDC (Electronic Data Capture) のシステムである。

抄録執筆時点では日本アフェレシスレジストリのシステムは日本アフェレシス学会レジストリワーキンググループにより開発が進められている段階であるが、発表では、多くの施設の参加が得られるようその仕様について解説したい。